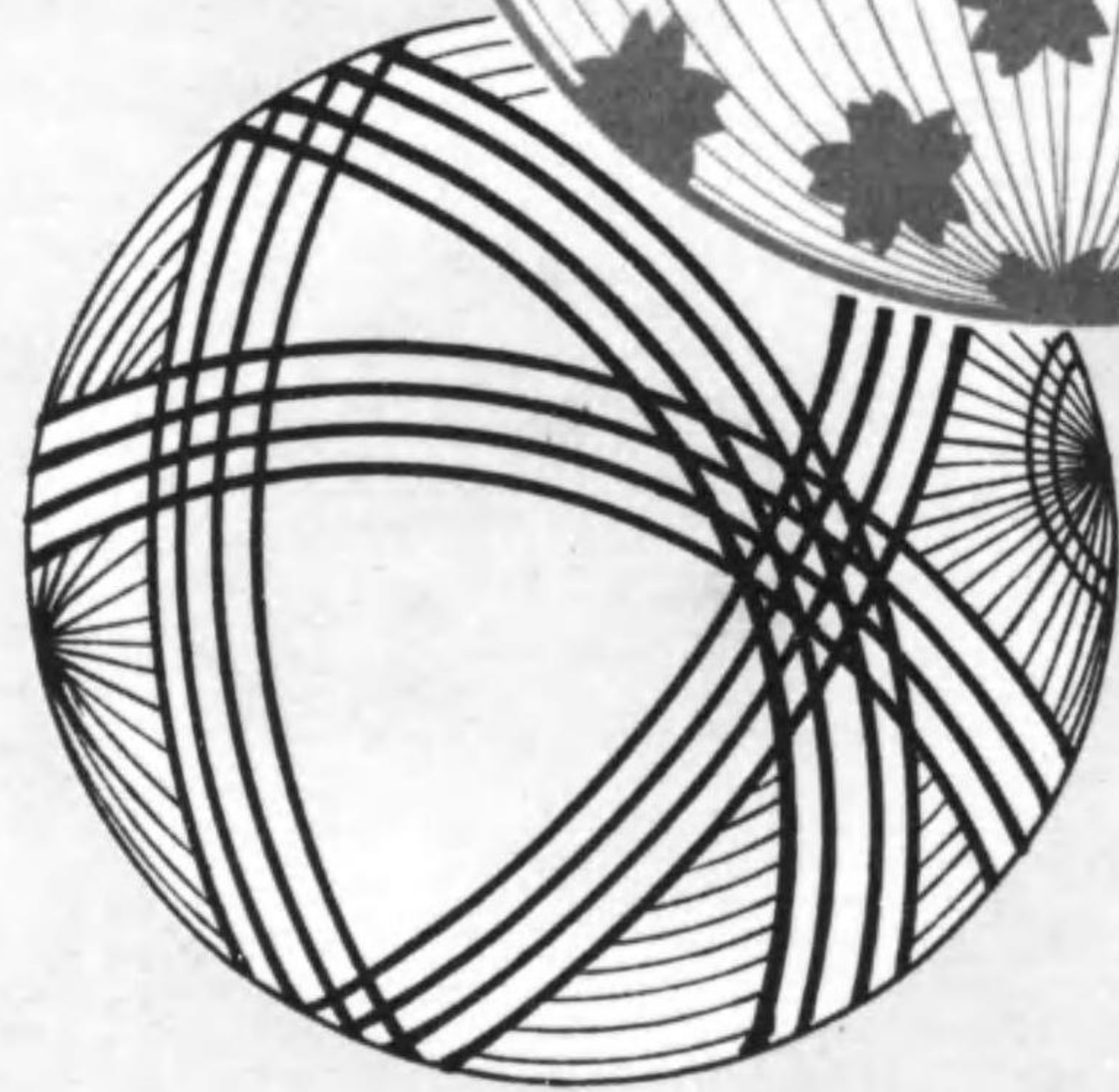


大 小
毬 毬
い き い き

集 謡 童 二 有 根 松

343

1290



社 才 エ ウ イ ア



始



時 220
985

大いき 小いさ 毬

松根 有 二 著

ア イ ウ エ オ 童話 社



装幀 市村雄造

序 歌

童謡とは童心より
生るる自然の歌です

優しい なつかしい
明るい歌です

優しく なつかしく
明るいゆゑに

(松根氏の童謡集に)

讀むだに 聞くだに
親したしみがあります

兒童の心には
言ふまでもなく

成人おとなの心にも
回顧のひゞきを傳へ

忘るることの

出来ないほど

丁度、父母ちちははの膝に
すがるやうに

甘いあま 明るいあかい 親したしさを
與へてくれます

野
口
雨
情

大きい毬 小さい毬 (目次)

序 歌 野口雨情

お寺のボツボ

お寺のボツボ	二
とんほの目玉	四
ゴロスケ啼く夜	六
たんころ田螺	八
蟻子の行列	一〇
朝起き一番	一三

畠の兵隊さん

號外チンチン	一五
迷子のお月さん	一七
月 見 草	二〇
だんだら坂みち	二二
星のかくれんぼ	二四
雀の幼稚園	二六
雪投げ遊び	二八
人形のお家	三〇
小鳥のハンモック	三二
けんげの花みち	三四

畠の兵隊さん	三六
蛙の行列	三八
大きい種小さい種	四〇
落葉の踊り子	四三
浮れねすみ	四六
蛙のマラソン	四九
吊り橋渡ろよ	五一
みみづく爺さん	五三
お靴の艦隊	五五
僕らのお節句	五七

小人の樂隊

影の黒ん坊	五九
山から來い	六一
雀の機織り	六三
小人の樂隊	六六
アイススケート	六八
あひるのおばさん	七〇
山から轉げて	七二
雲雀の歌姫	七四
浮れた蛙さん	七六

お寺のポツボ

他 十 五 篇

初日の光り	……	七八
茶ッ茶鳥	……	八一
鬼の郵便配達	……	八四
繪日傘まわして	……	八七
冒険ダン吉	……	九〇
つんつんつばくら	……	九二
轉がせホイ	……	九四
雨だれ兵隊さん	……	九七

お寺のボツボ

お寺のボツボ

鳩ボツボ

みんな可愛い鳩ボツボ

可愛いボツボ

鳩ボツボ

みんな仲よし鳩ボツボ

仲よしボツボ

鳩ボツボ

ボツボくと飛んで遊べ

こんぼの目玉

きんきら きらきら

とんほの目玉

くるつと廻つて

きらつと光る

とんほの目玉は

きんきら黄金こがね

高い青空

きらつとうつる

高い青空

どこまで高い

とんほは垣根で

きよろつと見てる

ゴロスケ啼く夜

お山でゴロスケ
啼く夜さは

(啼く夜さは)

外はまつくら
まつくろけ

厩の仔牛も
さびしかろ

(さびしかろ)

お星も雲まへ
かくれます

お山でゴロスケ
啼く夜さは

(啼く夜さは)

坊やもだまつて
ねゝします

たんころ田螺

たんたん田の畔 田圃みち
僕らは學校の 歸りみち
たんころ田螺が たんころりん

たんたん田の中 泥の中
たんころ田螺は 泥まみれ
ぱつくりお口が あいてゐる

ぴーひよろ田の上 青い空

意地わる鳶とんぼが 舞ふてるぞ
たんころ田螺よ 氣をつけろ

蟻子の行列

敷居の

街道

一本みち

蟻子の行列

長つゞき

赤蟻大將

先頭に

家來の

黒蟻

後つゞき

道中お荷物

とんほの目

みんなで

たかつて

引いてゆく

敷居の

街道

一本みち
はよゆけ
もうじき
日が暮れる

朝起き一番

朝起き一番 誰でせう
お宮のポツボか からすの子
いえくまだく 早いのは
お山のお寺の 小僧さんが
朝のとうから チンゴンガン
吊り鐘つくので 朝早い。

朝起き一番 誰でせう
軒端のチュンチュク 雀の子

いえくまだく 早いのは
谷間の水車のお爺さんが
朝のとうから ギイトントン
お米を搗くので 朝早い。

號外チンチン

號外チンチン
走ればチンチン
子供が後あとから
ついてくチンチン

號外チンチン
走ればチンチン
仔犬も後から
駆けだすチンチン

號外チンチン
走ればチンチン
みんながあわてて
飛び出すチンチン
號外チンチン
どつかでチンチン
走つていつても
鳴つてるチンチン

迷ひ子のお月さん

お月さん――

迷ひ子のく

お月さん

ひろいお空で

ただひとり

さびしかないの

泣かないの

お月さん――

雨夜のお晩は

暗いから

雲にかくれて

しくしくと

ひとりさびしく

泣いてるの

お月さん――

私しがお唱歌

うたふから

いつものやうに

にくくき

早く雲から

出ておいで

月見草

野原にヤ數々
露の數

お空にヤ數々
星の數

今宵も數々
月見草が

青い月光ひかりに
咲いてます

だんだら坂みち

だんだら坂みち 山のみち
夜明けはほのく しらむみち
ボツボの子供と からのすの子
朝のあいさつ 交すみち

だんだら坂みち 山のみち
晝まは涼しい 木の葉かけ
めじろの子供と すゞめの子
仲よく一しよに 遊ぶみち

だんだら坂みち 山のみち
夜更けは眞つ暗 こわいみち
こんく狐が お使ひに
提灯ともして 通るみち

星のかくれんぼ

かくれたく　ピツカリコ
ピツカリ光つて　飛び込んだ
星のかくれんぼ　雲の中
雲にかくれて　ピツカリコ
そら出たく　ポツカリコ
ポツカリ笑顔の　お月さん
向ふの山から　顔出して
星さんどこかと　さがしてる

駄目だよ　みつかるよ
今出ちや駄目だよ　みつかるよ
お月さんが雲間を　覗いたら
ピツカリ光つて　飛んで出る

雀の幼稚園

お脊戸の お脊戸の 竹藪は
子雀 すゞめの 幼稚園
朝のとうから

チュン チュク チュン
遊戯のおけいこ して遊ぶ

お脊戸の お脊戸の 竹藪は
子雀 すゞめの 幼稚園
先生すゞめが

チュン チュク チュン
みんなにお唱歌 教えてる

お脊戸の お脊戸の 竹藪は
子雀 すゞめの 幼稚園
いちんち楽しく

チュン チュク チュン
唄つて踊つて 日を暮らす

雪投げ遊び

こんこん雪ふれ雪つもれ
今日はたのしい日曜日
こんこん粉雪がつもつたら
みんな雪なげして遊ほ
こんこんこな雪まだつもれ
広い野つばら雪の原
雪投げする子はみんな来い
ボチも来い来いデヨンも来い

こんこん雪々もつとつもれ
雪投げ遊びは面白い
お山のお山の白うさぎ
僕らの仲間に入らないか

人形のお家

人形のお家が 出来ました
壁はきれいな 赤レンガ
たかいお空に そびえてる
お屋根もきれいな ピンク色

人形のお家の お庭には
リボンの花も 植ゑました
蝶々がひらひら 舞ひ踊りや
小鳥も黄金の 笛を吹く

夕やけ小やけで 鐘が鳴りや
いつしか日暮れて たそがれて
ぼつちり灯りも つきました
小さいなカーテン 引きましょか

お屋根の向ふに 月が出て
人形のお目は もうねむい
そのまゝとろりと ねんねすりや
静かな月夜に なりました

小鳥のハンモック

涼しいく 木の枝に

小鳥のつるした ハンモック

そよく 小風が 吹くたびに

小鳥はすやすや ねんねする

涼しいく 木の枝に

小鳥のつるした ハンモック

そよく 小風が 吹くたびに

小鳥はきれいな 夢をみる

小鳥のく みる夢は

どんなにきれいな 夢でせう

花のお里の 夢でしよか

それともお空の 夢でしよか

涼しいく 木の枝に

小鳥のつるした ハンモック

そよく 小風に ゆすぶられ

わたしもおねんね してみたい

畠の兵隊さん

他二十篇

げんげの花みち

げんげの花みち田圃みち
光りがさんさん降つてゐる
げんげの花みち田圃みち
雪雀がびいびい昇つてゐる
げんげの花みち田圃みち
仔牛がぼいぼい馳けてゐる
げんげの花みち田圃みち
お山がとろとろ眠つてゐる

畠の兵隊さん

畠の兵隊さん

葱坊主兵隊さん

青い服きて 整列だ

風吹きや 右向け 左向け

みんなそろつて

オイチ ニ、 オイチニ。

畠の兵隊さん

葱坊主兵隊さん

シャツボもかぶらず 整列だ
とんほが頭へ とまつても
そしらぬ顔して

オイチ ニ、 オイチニ。

畠の兵隊さん

葱坊主兵隊さん

鐵砲もかつがず 整列だ

晝でも夜でも 行儀よく

すらりと並んで

オイチ ニ、 オイチニ。

蛙の行列

お通りだ お通りだ
蛙の行列 お通りだ
金紋 先箱 供ぞろひ
お籠にゆられて ホホイのホイ
殿さま蛙の お通りだ
お通りだ お通りだ
蛙の行列 お通りだ
奴さんなら 意精よく

手ッ甲 すね巻 ホホイのホイ
毛槍を振りふり お通りだ
お通りだ お通りだ
蛙の行列 お通りだ
長の道中は 雨上り
泥はね水はね ホホイのホイ
びよんくびよんと飛んで お通りだ

大きい毬 小さい毬

大きい毬 手まり

ボンとついてはねて

お屋根の上を

ボンと飛んで落ちた

お屋根の上で

何見て飛んだ

「^{いたづら}悪戯する子はゐないかと

近所の子供を見て飛んだ」

小さい毬 手まり

チョンとついてはねて

垣根の上を

チョンと飛んで落ちた

垣根の上で

何見て飛んだ

「勉強せぬ子はゐないかと
近所のお窓を見て飛んだ」

落葉の踊り子

ひらひら落葉の踊り子は
風に吹かれて踊つてる
くるくる廻つて踊つてる

クルクル ヒラヒラ
クルクル ヒラヒラ
リラランラン
リラランラン

ひらひら落葉の踊り子さん
みんなで踊つて愉快だね
仲よく踊つて愉快だね

クルクル ヒラヒラ
クルクル ヒラヒラ
リラランラン
リラランラン

ひらひら落葉の踊り子は
夜中になつても踊つてる
淋しかないのか踊つてる

クルクル ヒラヒラ
クルクル ヒラヒラ
リラランラン
リラランラン

ひらひら落葉の踊り子さん
今夜は月夜でうれしいね

お月さんが見てるしうれしいね

クルクル ヒラヒラ
クルクル ヒラヒラ
リラランラン
リラランラン

浮れねずみ

雨の降る日は 天井の上で

みんな浮れて 輪になつて踊れ

しつぽ振りふり チユツ チユツ チユツ チユツ

ソレ チユツ チユツ チユツ チユツ チユク

チユツ チユツ チユツ チユウ。

屋根の上では 雨だれ太鼓

手拍子そろえて 足拍子うつて

音頭とれとれ チユツ チユツ チユツ チユツ

ソレ チユツ チユツ チユツ チユツ チユク

チユツ チユツ チユツ チユウ。

怖い仔猫も 朝から見えぬ

みんな浮れて 踊れよ踊れ

囃せ元気に チユツ チユツ チユツ チユツ

ソレ チユツ チユツ チユツ チユツ チユク

チユツ チユツ チユツ チユウ。

雨も降れく 小太鼓たゝけ

今日はほんとに 嬉しちやないか

とても愉快ちや チユツ チユツ チユツ
ソレ チユツ チユツ チユツ チユツ
チユツ チユツ チユツ チユウ。

蛙のマラソン

雨ふり上りの 田圃みち
蛙のマラソン はじまつた
ピョンと飛んで
ピョンと ピョンと ピョンと飛んで
お空をながめて……
サテ 一思案 一思案。

田圃のまん中 水の中
見物蛙の 應援だ

ゲツクツクの

ゲツク　ゲツク　ゲツクツクのク

みんなで囃して……

ソレ　浮れだす　浮れだす

見物蛙に　囃されて

それまたあわてて　飛びだした

ビヨンと飛んで

ビヨンと　ビヨンと　ビヨンと飛べぞ

向ふの畦みちや……

オヤ　まだ遠い　まだ遠い。

吊り橋渡ろよ

吊り橋渡ろ　ゆらゆら渡ろ

父さん先に　母アさん後に

子供は真ん中　並んで渡ろ

揺れる吊り橋　みんなみんな渡ろ

吊り橋渡ろ　ゆらゆら渡ろ

下見りや恐い　向見りや長い

足もとふるえ　ゆらゆら揺れて

揺れる吊り橋　みんなみんな渡ろ

吊り橋渡る ゆらゆら渡る
すべらぬ様に 轉ばぬやうに
流れの岸で 子蟹が見てる
揺れる吊り橋 みんなみんな渡る

吊り橋渡る ゆらゆら渡る
一歩行きや揺れて 二歩行きや揺れて
谷間の流れ そよ風吹くよ
揺れる吊り橋 みんなみんな渡る

みみづく爺さん

闇夜の山みちや朴はの木の上で
みみづく爺さん見張り番

あたりを見まはし ホ ホ
誰アれも来ないか ホ ホ
ホ ホ

お月様出ないし夜風は吹くし
今夜は寒くてたまらない

泣く子はゐないか ホ ホ
誰アれも来ないか ホ ホ
ホ ホ

からすも子雀こがねももうねゝしたか
こんこん狐も鳴きやせぬか

あたりを見まはし
誰アれも来ないか
ホ
ホ
ホ
ホ
ホ
ホ

闇夜の山みちや朴の木の上で

みみづく爺さんねすの番

ぎらぎらする目で
誰アれも来ないか
ホ
ホ
ホ
ホ
ホ
ホ

お靴の艦隊

なーらんだ ならんだ

お靴の艦隊 なーらんだ

父さんのお靴は 戦闘艦

兄さんのお靴は 巡洋艦

僕らの小さい 豆靴は

後につづいた 駆逐艦

なーらんだ ならんだ

お靴の艦隊 なーらんだ

お庭の海の まんなかに
戦闘準備を ととのへて
威風堂々 勇ましく
づらりと並んだ なーらんだ

なーらんだ ならんだ
お靴の艦隊 なーらんだ
お庭の海は おだやかに
風も吹かねば 波もなく
空もひろく よく晴れて
飛ぶのは蜻蛉の 飛行隊

僕らのお節句

空は青ぞら 日本晴れ
今日は僕らの お節句だ
青い空には 赤い鯉 黒い鯉
お風を食べたべ 泳いでる

風よ吹け吹け 空たかく
僕らのお節句 よい天気
高い空には 大きい鯉 小さい鯉
どちらにも元気に 泳いでる

みんな来い来い　よつて来い
僕らのお節句　うれしいな
広い空には　僕の鯉　君の鯉
あれあれ負けずに　泳いでる

影の黒ん坊

僕が歩けば　ついてくる
影の黒ん坊　道化者
ひよろ／＼ひよろりと　細長く
僕の真似して　ついて来る

僕がすわれば　うづくまる
影の黒ん坊　道化者
づんぐり小さく　足もとに
僕の真似して　うづくまる

僕が飛んだら 影も飛ぶ
影の黒ん坊 道化者
僕が走れば どこまでも
負けずに かけて来る

僕が止れば 立ちどまる
影の黒ん坊 道化者
僕が踊れば 面白く
影も浮れて 踊つてる

山から来い

山から来い 飛んで来い
機織りバツタの 四十雀
お山は寒けりや 里まで来い
襟巻きかすから
飛んで来い 飛んで来い

山から来い 逃げて来い
お洒落のお洒落の 白うさぎ
お猿がこわけりや 里まで来い

僕らの仲間へ

逃げて来い 逃げて来い

山から来い 下りて来い

闇夜のお晩が さびしけりや

親なし仔狐 里まで来い

提灯ともして

下りて来い 下りて来い

雀の機織り

お脊戸のお藪で母アさん雀

いちんちせつせと機を織る

チュンくバツタン チュンバツタン

チュンくバツタン チュンバツタン

朝から三反晝から五反

八反織つたら日が暮れた

チュンくバツタン チュンバツタン

チュンくバツタン チュンバツタン

小 人 の 樂 隊

他 十 三 篇

夜なかに夢みて子雀たちが
みんなで愉快に機を織る

チュンくバツタン チュンバツタン
チュンくバツタン チュンバツタン

みるくうちに三反五反
八反めで目がさめた

チュンくバツタン チュンバツタン
チュンくバツタン チュンバツタン

小人の樂隊

ゆうべ夢で見た小人の國の
とても素敵な小人の樂隊さん

青い服つけて

赤いズボンはいて

二列に並んで ピードコドン

ランララ ピードコ チヤンチャツチャ

ゆうべ夢で見た小人の國の
とても可愛い小人の樂隊さん

トンガリ帽子かぶつて

赤い靴はいて

足なみ揃えて ピードコドン

ランララ ピードコ チヤンチャツチャ

ゆうべ夢で見た小人の國の
とても愉快な小人の樂隊さん

豆太鼓たたいて

クラリオネット吹いて

みんなで合して ピードコドン

ランララ ピードコ チヤンチャツチャ

アイス スケート

すべろ すべろよ 氷の上で
アイス スケート ツララと走る
みんな仲よく 元気を出して
ツララ ツイツイ 元気をだして
今日はお日様 ニコニコしてる

すべろ すべろよ どこまで走る
アイス スケート ツララと走る
僕ら風の子 寒くはないよ

ツララ ツイツイ 寒くはないよ
空でそん薦も まひまひしてる

すべろ すべろよ 並んで走る
アイス スケート ツララと走る
お手々つないで 轉ばぬやうに
ツララ ツイツイ 轉ばぬやうに
さあさすべろよ ツララと走る

あひるのおばさん

ゲゲゲのゲ——

ゲゲゲのゲ——

小川の土堤みち 春のみち

あひるのおばさん お散歩だ

よつこらく よつこらしよつと

お尻をふりく 歩いてる

ゲゲゲのゲ——

ゲゲゲのゲ——

小川の土堤道ア 花さかり

あひるのおばさん 嬉しかろ

よつこらく よつこらしよつと

お花見きどりで 歩いてる

ゲゲゲのゲ——

ゲゲゲのゲ——

春風ほうほう 日はさんさん

あひるのおばさん 上気げん

よつこらく よつこらしよつと

とてもすまして 歩いてる

山から轉げて

コロ／＼コロリン　コロ／＼リン
コロ／＼轉げて　何が來た
どん栗はじけて　山のみち
コロ／＼轉げて　やつて來た、

コロ／＼轉げて　來るみちに
可愛い子鳩が　二羽三羽
ホロ／＼朴ほの木で
啼いてゐた、啼いてゐた。

コロ／＼コロリン　コロ／＼リン
コロ／＼轉げて　何が來た
からすの忘れた　からすうり
コロ／＼轉げて　やつて來た、

コロ／＼轉げて　來るみちに
眞まつ赤かな夕日が　もう落ちて
コン／＼狐が
啼いてゐた、啼いてゐた。

雲雀の歌姫

ピーチク雲雀の歌姫さん

今日もお空でうたつてる

お唱歌 ピーチク ピーチク チー

青い空から降りといで

お唱歌うたつて降りといで

野路にやけんげも咲いてゐる

ピーチク雲雀の歌姫さん

あなたのおうちは麦畠

ピーチク ピーチク ピーチク ホー

おうちに赤ちゃん待つてるの

泣かすにく〜待つてるの

ほんとに可愛い歌姫さん

ピーチク雲雀の歌姫さん

あなたは優しい空の鳥

ピーチク ピーチク ピーチク チー

早くこちらへ降りといで

赤ちゃんあるなら抱いといで

みんなと一しよに遊びませう

浮れた蛙さん

浮れた 浮れた 蛙さんはネ
月夜の田圃で 月見のダンス
ゲツク ゲツク ゲツクゲツクで
ビヨんと ビヨんと はねて
はねて踊つて

タラツタラツタ ラツタツター

浮れた 浮れた 蛙さんはネ
自慢のソプラノ 得意な聲で

ゲツク ゲツク ゲツクゲツクで
ビヨんと ビヨんと はねて

歌に合して

タラツタラツタ ラツタツター

浮れた 浮れた 蛙さんはネ
泥はね 水はね 愉快なダンス
ゲツク ゲツク ゲツクゲツクで
ビヨんと ビヨんと はねて
ひとり浮れて

タラツタラツタ ラツタツター

初日の光り

初日の光り さしいでて
今日はうれしい お正月
朝も早よから お屋根では
子雀すゞめの 歌の聲
聞えてうれしい お正月
初日の光り さしいでて
今日はうれしい お正月
みんな楽しく 元氣よく

毬つき遊びや お羽根つき
雀も一しよに 遊びませう

初日の光り さしいでて
今日はうれしい お正月
門松たてて 国旗^{はた}たてて
赤いふり袖 紅カッコ
歩けばちりちり 鈴が鳴る

初日の光り さしいでて
今日はうれしい お正月

空も青ぞら よく晴れて
雪のお山の しろうさぎ
みんな正月 うれしかろ

茶ツ茶鳥

茶ツ茶ツ茶の木で
啼く鳥は
茶ツ切り茶山の
茶ツ茶鳥
ちよんと飛んでは
茶ツ茶ツ茶
お茶の芽ついはみ
茶ツ茶ツ茶

茶ッ切り茶山の

茶ッ茶鳥

茶の木の小枝で

宙返り

くるりと返つて

茶ッ茶ッ茶

たまげた顔して

茶ッ茶ッ茶

茶ッ切り茶山の

日はのどか

ひとり浮れて

茶ッ茶鳥

いちんち茶の木で

茶ッ茶ッ茶

ちよんと飛んでちよんと跳ねて

茶ッ茶ッ茶

兎の郵便配達

ホイ　ホイ　ホイサツサ

朝の早こうから意精よく

お山の細みち駈けてくる

兎の郵便配達さん

お耳をピョコ／＼ホイサツサ

ソレ　ホイサツサ　ホイサツサ、

ホイ　ホイ　ホイサツサ

むぐらのお家うはどこかいな

いたちのお家うはどこかいな

竹藪　笹藪　木の根つこ

たづね／＼てくたぶれて

ヤレ　ホイサツサ　ホイサツサ。

ホイ　ホイ　ホイサツサ

暑い日盛り山のみち

汗水ふきふき駈けてくる

兎の郵便配達さん

やれ／＼いそがしホイサツサ

ソレ　ホイサツサ　ホイサツサ、

ホイ　ホイ　ホイ　ホイ　サツサ
まめだのお家はどこかいな
むじなのお家はどこかいな
松原　杉原　すすき原
たづねくゝて日が暮れて
ヤレ　ホイ　サツサ　ホイ　サツサ。

繪日傘まわして

春風ほう　　春風ほう
春風ほうほう　　うれしいな
繪日傘まわして　　遊びませう
野徑にや莖や　　たんぽぽも
きれいにく　　咲きました
春風ほう　　春風ほう
春風ほうほう　　うれしいな
繪日傘まわして　　歌ひませう

お空で雲雀も　ピーチクチー
上手にお唱歌　うたつてる

春風ほう　春風ほう

春風ほうほう　うれしいな

繪日傘まわして　踊りませう

小鳥が黄金こがねの　笛吹けば

蝶々もひらひら　舞ひ踊る

春風ほう　春風ほう

春風ほうほう　うれしいな

繪日傘まわして　帰りませう

きれいな堇や　たんぽぽの

お花を摘み摘み　帰りませう

冒険ダン吉

冒険ダンちゃん 裸ん坊
とても無邪気で 元氣よく
どこへ行つても お手柄を
たててみんなを 嬉こばす
冒険ダンちゃん 人気者
まるい頭おっむに かんむりを
ちよんとかぶつて 面白く
いつもみんなを 笑はせる

冒険ダンちゃん 子供でも
蠻公カリ公 したがえて
正義の爲なら どこまでも
誰にも負けない 勇気者

冒険ダンちゃん 日本の子
今では島の 王様だ
そしてみんなを 嬉こばす
僕らの仲よし お友だち

つんつん つばくら

つん つん つばくら

飛んで 飛んで おいで

小雨の降る中 シュツくとぬけて

「遠い南洋の お話しや

椰子の葉蔭で 見た夢を」

つんくつばくら 話しておくれ。

つん つん つばくら

飛んで 飛んで おいで

電信柱を シュツくとこえて

「やつぱり土人の 子供でも

お人形遊びを してゐるの」

つんくつばくら おしえておくれ。

つん つん つばくら

飛んで 飛んで おいで

柳の小枝を シュツくとぬけて

「遠い南洋の お言葉や

土人の子供の お唱歌を」

つんつんつばくら 聞かせておくれ。

轉がせホイ

—收穫こむいれの歌—

轉がせホイ 轉がせホイ

みんなで轉がせ 一二のホイ

依は重たい 米依

掛聲あわせて

エンヤコラ エンヤサ

エンヤコラエンヤサで 轉がせホイ

轉がせホイ 轉がせホイ

お米の依だ 一依二依ホイ

空は秋晴れ日本ばれ

そよ風そよそよ

エンヤコラ エンヤサ

エンヤコラエンヤサで 轉がせホイ

轉がせホイ 轉がせホイ

畦道ア長いぞ 一丁二丁ホイ

鎮守の祭りももうじきだ

あの子もこの子も

エンヤコラ エンヤサ

エンヤコラエンヤサで 轉がせホイ

轉がせホイ 轉がせホイ
みんな元気で 轉がせホイ
今日は嬉しい 收穫とれだ
ボチも来て押せ

エンヤコラ エンヤサ
エンヤコラ エンヤサで 轉がせホイ

雨だれ兵隊さん

雨だれ兵隊さんは浮れ者
豆太鼓たたいてお屋根の上で
跳ねて浮れて

タンタラタントン
タントントン
タララタラタラトント
踊つてゐる

雨だれ兵隊さんは愛嬌者

お屋根の上から轉んで落ちて
それでも泣かずに

タンタラタントン

タントントン

タララタラタラトントン

踊つてゐる

雨だれ兵隊さんは呑ん氣者
いちんちお屋根でタンタラ踊り
みんなで愉快に
タンタラタラトントン

タントントン
タララタラタラトントン
踊つてゐる

童話集
大いき 小いさ

昭和十一年七月十五日印刷
昭和十一年七月二十日發行

『定價 壹 圓』

和歌山縣新宮市新宮六八一五

著作兼 發行人 松根有二

大阪市港區市岡元町一丁目二〇

印刷人 岸本由之助

大阪市港區市岡元町一丁目二〇

印刷所 會社名 岸本印刷所

和歌山縣新宮市新宮六八一五

發行所 アイウエオ童話社

終

